ご近所福祉 在宅医療を考える

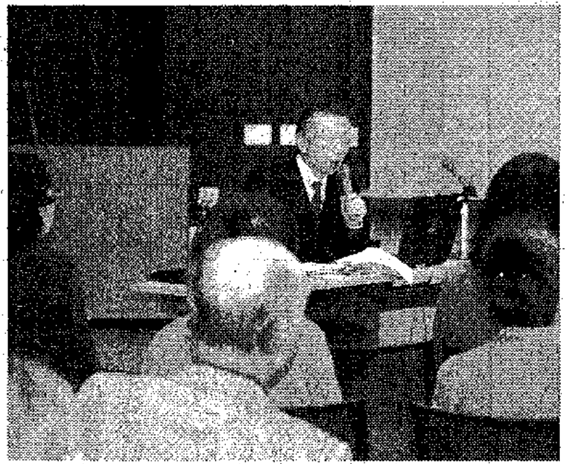
沼津医師会 青木一雄会長が講演

家族による看取り支援

医療者はより良いケアを

市社会福祉協議会は、静岡福祉文化を考える会との共催で「ご近所福祉inぬまづ」を先月、日の出町のサンウェルぬまづで開いた。

高齢者と親子が交流する昔遊びが行われ、市ボランティア連絡協議会による駄菓子屋がオープン。各種団体による活動と作品の展示があり、認知症に関する相談コーナーを設け、舞台では来場者も参加して歌を楽しみ、健康講座なども開かれた。


イベントの中で在宅医療について講演する青木会長＝サンウェルぬまづ４階で

健康講座では、沼津医師会の青木一雄会長が「在宅医療 看取りを支える」をテーマに講演。

現在、全国で年に百万人から百十万人が死亡しているが、十五年後には百五十万人から百六十万人に達する見込みであることを話し、「昭和二十五年ごろは在宅死が八〇%前後だったのが、最近では医療機関で亡くなる人が八〇%を超えている。死者数が増えていけば、医療機関では全てに対応できなくなる」と説明。

入院機能を持たない無床診療所が増加する一方で、往診を行う一般診療所が少なく、病気になった高齢者が自宅療養を希望しても退院後の不安から病院に入院したまま最期を迎える人が多く、「特別養護老人ホームで最期を迎えたい」と願っても、入居待機者が四十二万人を超え、入居できないというのが現状。

自宅で最期まで療養することが困難である理由として多いのが、「介護してくれる家族に負担がかかる」「病状が悪化した時の対応に不安がある」。

沼津医師会では、こうした不安の解消を目指し、「在宅医療支援ネット」を沼津、裾野市、長泉、清水町の各医療機関と連携して七地域に構築。訪問看護ステーションと共に自宅療養に対応し、支援していく考え。

青木会長は、「私個人の意見」と前置きしながら、「これまで臨終時は医師と看護婦が主役で家族は後ろで見守っていたが、医師や看護師が同席できない場合、家族だけで臨終を迎えるケースがあってもいいと思う。高齢で天寿を全うする人は十分、家で看取れる。我々医療者は看取りの中心ではなく、少しでも良いケアができるよう頑張りたい」とした。

在宅での看取りのためには、「医療者も家族の看取りを支えること、家族がケアに参加できる体制づくりが必要」だと強調し、「特に自然死は医療の問題ではなく、地域医療、地域社会の問題。医療支援チームや訪問看護ステーション、薬剤師、ケアマネージャー、ヘルパー、各種サービス事業者が一体となった取り組みを進めていきたい」と話した。

山秋眼科医院
診療時間　平日9:00～12:00,14:00～17:30
土曜9:00～12:00
〔入院応需〕
沼津市筒井町1-5 TEL924-4680

沼津の夜に活気を

飲食店借り切り飲み歩き

沼津活性化プロジェクト「出会っていいとも！」（同実行委主催）が三日、上本通りとアーケード名店街周辺の飲食店九店舗を貸し切りにして開催された。男女半々の三百二十人が参加。九店舗を巡回して飲食を楽しみ、交流を深めた。

同イベントは、夜、飲み歩く人が少なくなった沼津のまちに活気を取り戻そうと、まちの情報館の大嶋健一朗事務長が立案し、実行委を組織。半年程前から準備を進めてきた。

参加九店舗のうち、アーケード名店街「あした葉」の望月大樹代表が実行委員長を務め、関係者が意見を出し合い、細かいルールなどを設定。参加各店を知ってもらい、顧客になって足を運んでもらうきっかけ作りにするだけでなく、参加者同士が交流を深め、男女の出会う場として「婚活」にも役立ててもらうことを狙いとした。

３２０人の男女が参加して飲食を楽しみ、交流を深めた＝アーケード名店街のあした葉で

当初、男女半々で参加者を二百五十人に限定し、男性六千五百円、女性三千五百円で前売り券を販売したが、女性の参加希望者が多く、男性は少なめ。その後、女性が多いことを聞いて男性の参加者が一気に増え、キャンセル待ちが出るまでになり、定員を三百二十人まで増やして前売り券を完売した。

イベント当日、参加した男女は、アーケード名店街のまちの情報館に集合。前売り券とリストバンドを引き換え、最初に行く店については事務局で指定して参加者を分散させた。

参加者は一店舗につき滞在時間一時間以内で、午後七時から十一時までの四時間に四店舗を巡回しながら各店の雰囲気や料理と酒を楽しんだ。

参加者の多くはグループで参加し、中には夫婦での参加も。

一人で参加した男性は「長い間彼女がいなかったので、この機会に良い女性と知り合いたい」といい、グループで参加した女性は、「飲食が目的。楽しければ友達ができるかも」と話していた。

開始当初は仲間内だけで話す姿が目立ったが、参加者が多かったことから、どの店もいっぱいになり、席を詰めて座ったこともあって初対面でも参加者同士、声が掛けやすい雰囲気となり、酒が入るほどに盛り上がりを見せた。

大嶋事務局長は「皆、本当に楽しんでくれて大成功だった。初めての開催で至らなかった点もあったが、次回は六月、十月と年三回程度の開催を予定しているので、次回は改善し、より良いイベントにしていきたい」と話している。

望月委員長は「沼津の夜のまちが寂しくなり、飲み歩く人もあまりいなくなった。飲食店が、少ない水を取り合うのではなく、水を増やしていくことから始めなければならないと考えた。このイベントをきっかけに、各店舗について知ってもらい、少しでもまちで飲み歩く人が増えてくれたら」と願っていた。

メインストリート
ギャラリー
Gallery+Cafe エビスヤ
大手町さんさん通り ℡962-2376

演奏会のあとに

山室 義子

昨年十二月二十三日の定期演奏会から、一カ月半程が過ぎた。静かに目を閉じてみると、壮大深遠な世界に、今もなお全身が浸っている感じがする。

毎年来てくださっている方、今回初めて来てくださった方々から様々な感想をいただいている。

「きょう、発声が格別良かった。相当練習を積んでいると思った。気迫が感じられ、最後まで引き込まれるように聴いた。全身全霊をこめて歌っていた。重厚な曲で普段聴けない曲で幸せでした」の評は、大変うれしいものである。

「急ぐことはない。慌てることはない」と思いつつ、二〇一一年を迎え日々を過ごしているが、今もこの思いに浸っていられるのは、メンデルスゾーンの「エリヤ」を歌えたことによるものだろう。

大曲で、難曲だと練習開始した一年前、三島グロリア合唱団の誰の目からも、体からも、口からも、その取り組む姿勢は物凄いものであったことを肌で感じていた。

本番当日を最高のコンディションに持っていくために日を送っていたが、ドイツ語の意味とメロディーをしっかり自分のものにしようと見直し見直ししていたためか、不本意ながら多少、寝不足状態で当日を迎えてしまった。入場者は一〇二九人、ほぼ満席であった。

死の一年前に書き上げられた「エリヤ」はヘンデルの「メサイア」、ハイドンの「天地創造」と並ぶ三大オラトリオ（宗教的声楽曲）と称される。

この「エリヤ」について、ご一緒くださった東京バッハ・カンタータ・アンサンブルの方は「メンデルスゾーンというのは本当に細かいことがすごく要求されていて、こなすのが結構至難の技なんです。それが二回の練習でやらなきゃいけないということで緊張しました」と。

テノール・ソリストの大島さんは「曲全体にわたって非常にハイテンションですよ。それを最初から終わりまで保ち続けることが素晴らしいかなと思いました。突き抜けたような積極性。そこが素晴らしい。聴きに来てくださったお客さんに伝えるという点で、これほど正直な演奏はない。そういう点で本当に素晴らしい演奏だった」と。

バスのソリスト北村さんは「その突き抜けた積極性、何かすごかったですね。さーっと血の気が引きました。どうやって、テンションを上げていられるのか。話のつなぎをしらけさせないで集中力を途切れないように舞台で大変でした」と。

ソプラノ・ソリスト三塚さんは「個人的には本当に、一生あるかないかっていうくらいの経験をさせていただいた。こんな幸せな気持ちでいられるのは、滅多にないことでした」などと感想を述べられています。

これらは今後の励みとなる感想で、また、お客様から寄せられた数々の感想の中にも、本当にうれしいメッセージがありました。感謝感謝。

四十二曲を美しく激しく変化に富んだ壮大優雅にして深遠な「エリヤ」と思うことで十分であろうが、指揮者の渡辺善忠氏は次のように語っています。

「今も生きておられる神が、私達を真の信仰に立ち返らせてくださるために、エリヤを遣わして

くださったことを
いる。古代のイス
の人々がバアルの
奪われたように、私
様々な『神まがいの
にとらわれている
思いますが、神が
うな私達を見捨て
となく『呪いを祝
変えてくださると
書のメッセージを
らば幸いです」

ちなみに、フェリ
ス・メンデルスゾ
ドイツ最大の商業
ンブルクでユダヤ
庭に生まれ、敬け
リスト教徒であっ
は記憶しておくべ
ろう。さらに、八
先生の指導があっ
こそ、このオラト
「エリヤ」を歌え
ということを記して
たい。

そして今も、「エ
の世界に浸り、あの
く力あるメロディ
数々を口ずさむ日
る。

（木

明るい選挙啓発の習字作品審査

優秀賞、優良賞に各10点

明るい選挙啓発習字作品審査会が先月三十一日、市役所大会議室で開かれ、元教員の小笠原昇さん、杉山周平さん、山本吉明さんが審査員を務めた。

二十六小学校から千七百二十六点、十八中学校から二百三十六点が寄せられ、優秀賞と優良賞に、それぞれ小学生の四十三点、中学生の七点が選ばれた。

優秀賞 ▽小
生＝野村美月（静
山村萌（戸田）、
夢（同）、岩本
（門池）、芹澤遥
市川桃子（第三）
小桃（第四）

愛吟国風会が春季大会

13日 市民文化センター

吟
は
流
季
十
前
士
時
場
市
セ
小ホールで開く。
開会式に続き、
吟や高齢者、昇伝